

1
防災に関する講座で育成した地域の女性の意見を吸い上げ、マニュアルを改定！
山形県酒田市

取組概要

- 民生委員や地域コミュニティ振興会、一般公募など、地域の女性を広く募集して講座を実施
- 講座修了者に声をかけてワークショップを実施し、避難所運営マニュアルを改定

取組のきっかけ

 『マニュアルの改定時に女性の視点を取り入れたい！』

これまでに作成していた避難所運営マニュアルには、男女共同参画や要配慮者等の視点が欠けていたり、自主防災の担い手の多くは男性で、女性は手伝いという意識が根強かった……

↓

熊本地震等の教訓をもとに全国で取り組まれた要配慮者への対応を参考に、市の避難所運営マニュアルを改定することに。

↓

避難所運営に女性の視点を取り入れたいと考え、令和3年度からの新事業として、女性の地域防災リーダーの育成を開始。

↓

育成した女性の防災リーダーとのワークショップを通じて女性視点での避難所運営を検討して、年度の最終目標としてマニュアル改定まで目指そう！

山形県
酒田市 危機管理課

電話:0234-26-5701
<https://www.city.sakata.lg.jp/bousai/bousai/hinanjyo/kikikanri02.html>

酒田市HP➡

事例1 「防災に関する講座で育成した地域の女性の意見を吸い上げ、マニュアルを改定！」 山形県酒田市

【取組概要】

- 民生委員や地域コミュニティ振興会、一般公募など、地域の女性を広く募集して防災に関する女性向け講座を実施しました。
- 講座修了者に声をかけてワークショップを実施し、避難所運営マニュアルを改定しました。

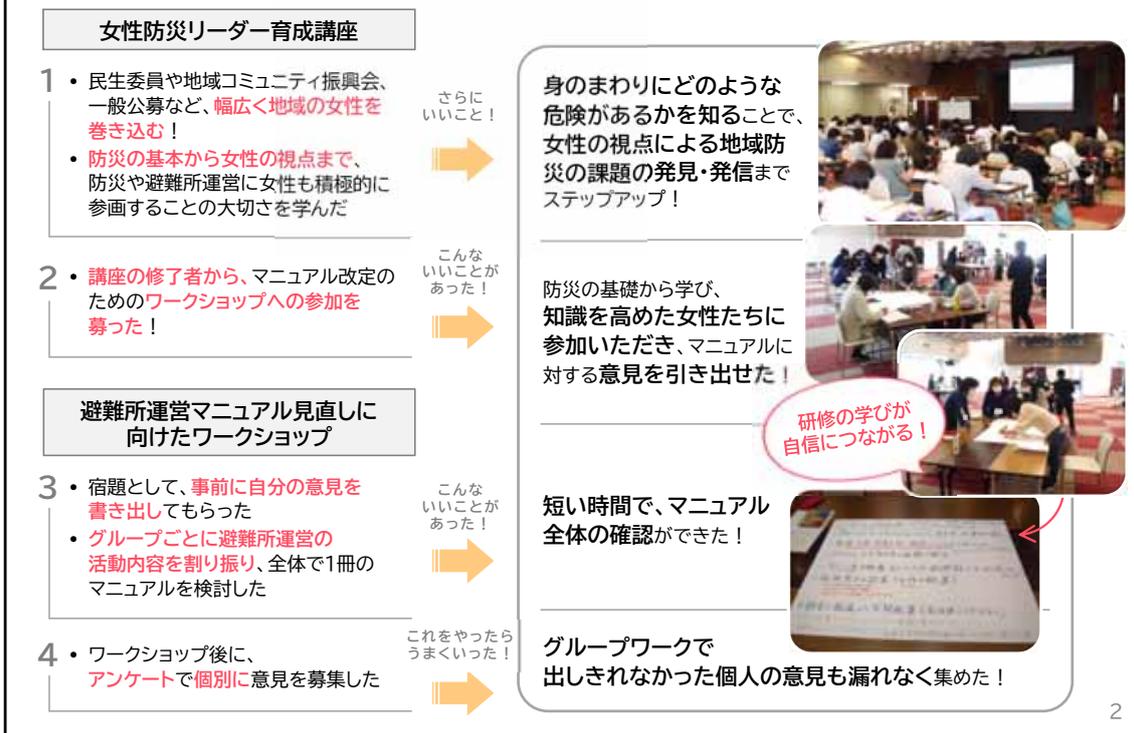
【取組のきっかけ】

- 平成29年度に地域、学校、市による避難所運営体制構築の検討を進め、避難所運営マニュアル(※)を作成しましたが、男女共同参画の視点や、要配慮者の災害関連死を防ぐ等といった視点が欠けていたり、自主防災の担い手の多くは男性で、女性は手伝いという意識が根強いと感じていました。
- 熊本地震において、死者の多くは災害関連死だったことから、酒田市でも避難所の対応や環境改善が必要と考え、市の避難所運営マニュアルを改定することになりました。
- そこで、マニュアルの改定にあたっては、女性の視点を取り入れたいと考えました。共助体制を強化するために、まずは令和3年度の新事業として女性の地域防災リーダーを育成し、地域防災力の強化を目指しました。さらには年度の最終目標として、女性視点で避難所運営マニュアルを検証し、マニュアル改定まで実施することにしました。
- マニュアル改定については、講座を通じて育成した女性たちからワークショップで意見を出してもらい、計画に反映させていくことを目指しました。

※避難所運営マニュアル(令和4年3月改定)

(<https://www.city.sakata.lg.jp/bousai/bousai/hinanjyo/kikikanri02.html>)

1 地域の女性たちが防災の知識を高めて、マニュアル改定に参画！



①地域の女性たちが防災の知識を高めて、マニュアル改定に参画！

<女性防災リーダー育成講座>

- 「女性防災リーダー育成講座」では、確実に参加者を確保するために民生委員・児童委員とコミュニティ振興会に声をかけ、市の広報やホームページ等の周知により、一般応募からも申し込みを受け付けました。地域の多様な女性を巻き込み、防災の基本をはじめ、女性の視点を取り入れた防災・災害対応を学んでいただいたことで、女性の視点から地域防災の課題を発見し、受講生たちが自分の意見として発信することができるようになりました。
- 講座の修了者に対してアンケート調査を行い、「マニュアル改定のためのワークショップ」への参加を募り、多くの方に参加いただきました。これにより、講座によって知識を高めた女性たちから、マニュアルに反映させる意見を引き出すことができました。

～講座の内容(計3回)～

【第1回】ステップ1<知る>災害のメカニズム

【第2回】ステップ2<備え>「いざ」に備えて「いま」何をすべきか

【第3回】ステップ3<発信>「アワータイムラインin酒田」を考えよう

<避難所運営マニュアル見直しに向けたワークショップ>

- 「避難所運営マニュアル見直しに向けたワークショップ」では、宿題として自分の意見を書き出してもらい、事前に参加者からの意見を集めました。また、グループごとの検討テーマを避難所運営の活動で割り振り、分担しながら検討を進めました。グループワークでは模造紙に課題を書き出しながら、マニュアルの改善点について話し合いました。これらにより、短い時間でマニュアル全体を見直すことができました。
- ワークショップの終了後に個別アンケートを実施したことで、グループワークでは出し切れなかった個人の意見も漏れなく集めることができました。

2 地域で活躍する女性とつながり、研修の企画から計画の修正まで連携！

講座・ワークショップの企画

1. 講座やワークショップの講師は、市が指導を受けていた大学の専門家や、県の自主防災アドバイザーを探し、依頼した
2. 引き受けてくれた講師に、女性の視点からの防災・災害対応が大切だという市としての思いを伝えるとともに、取組の計画について相談し、助言を受けた

こんないいことがあった！



依頼した講座やワークショップの講師としての関係だけでなく、マニュアルの改定における全過程で熱心に関わっていただけました！

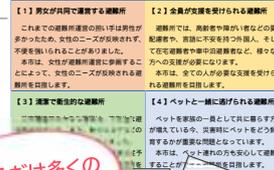


2. 地域で活動する女性の防災士に市の取組を理解し、共感してもらえるよう、企画の内容や現状の課題について共有した

こんないいことがあった！



地域で活動する女性の防災士を取組に巻き込み、講座の運営などで協働することができた！



ワークショップの意見集約

3. マニュアルに反映させる意見を選定するためのオンライン会議を実施した
4. 講師に修正の状況を報告し、随時確認してもらう作業を繰り返した
4. 改定したマニュアルのポイントや修正箇所をとりまとめた説明資料を作成した

これをやったらうまくいった！



オンライン会議の結果を踏まえて、ワークショップで集めた意見を避難所運営マニュアルに反映できた！

できるだけ多くの意見を反映！



避難所運営に関する話し合いの場で、自治会や地域の男性のリーダーに対して、避難所運営マニュアルの改定や、市が目指す避難所像について説明できた！

3

②地域で活躍する女性とつながり、研修の企画から計画の修正まで連携！

<講座・ワークショップの企画>

1. 講座の講師は、津波防災で市が指導を受けていた大学の専門家に、ワークショップの講師は県の女性の自主防災アドバイザーをインターネット上で検索して依頼しました。引き受けていただいた講師には、講座やワークショップ等の取組に対する、女性の視点を取り入れた防災・災害対応が大切だという市の考えや担当者としての思いを伝えるとともに、これからの計画について相談しました。講座やワークショップの実施に当たっては、オンラインでの打合せを行いながら、企画に対して助言していただきました。講師の方々からは講座やワークショップの講師だけでなく、打合せを重ねるにつれて、マニュアルの改定までの全過程において熱心に関わっていただくことになり、地域で活躍する女性の防災専門家等と共に取組を進めることができました。
2. 他にも、地域で活動している女性の防災士に、市の取組を理解し共感していただけるよう、企画の内容や現状の課題について共有したところ、他の女性の防災士と共にネットワークを組織して市の取組を支援いただけることになりました。また、講座やワークショップを実施する際には、女性の防災士の方にもオンライン打合せに参加してもらい、意見交換を行いました。その結果、講座を一緒に運営してグループワークをサポートしていただいたり、マニュアル改定のための意見をいただいたりするなど、女性の防災士を巻き込み、講座の運営等にあって協働することができました。

<ワークショップの意見集約>

3. 講師と女性の防災士たちを含めてオンライン会議を実施し、ワークショップで集めた意見の中からマニュアルに反映させる意見を選定しました。このオンライン会議の結果を踏まえ、危機管理課の担当者が修正しながら、こまめに状況を報告し、随時確認してもらう作業を繰り返しました。これにより、できるだけ多くの意見をマニュアルに反映することができました。
4. 改定したマニュアルのポイントや修正箇所をとりまとめ、外部への説明資料を作成しました。避難所運営に関する話し合いの場で、自治会や地域の男性のリーダーに対して、改定箇所や市が目指す避難所像についてわかりやすく説明することができました。